

2 GIGA スクール構想下での取り組みと期待する効果

「新たな授業の可能性を探求」「子どもを手の届かないところにおかない教育」

磐田市では、4月に全市立小中学校の児童生徒に対して Google アカウントを発行しました。小4～中3は4月から、小1～小3は9月から1人1台端末を整備します。

子どもたちは課題と感ずることを、端末を使って調べ、解決することができます。また、端末内のアプリを使って考えたり、級友との意見を比較したりすることで、自ら考える力を付けていきます。

子ども1人1人が、自ら調べ、考え、表現する「個別最適化」した学びを推進していきます。

1 学びの可能性の追求

① 教室へ来られない児童・生徒の気持ちに寄り添ったつながりを

諸事情で授業を教室で受けることができずにいる子どもたちの端末と、教室の端末をつなぐことで、「先生にメッセージを送ってみよう」「保健室から教室の授業を受けてみよう」といった、子どもたち1人1人の選択肢を広げ、子ども1人1人の気持ちに寄り添った教育を行っていきます。

② 学習のつながりを意識し、より深い学びを

LTE 回線を採用したことにより、運動場、体育館、家庭、校外学習等、様々な場面において、環境に左右されることなく端末を持ち出すことができ、いつでも、どこでも、学習を継続し、子どもたちが納得するまで、学びを深めることができます。

2 子どもと向き合う時間の確保

① 電子入力を活用し、子どもたちとの時間を確保

LTE 回線を採用したことで、家庭からの欠席連絡や、教室での朝の健康観察を、端末を用いて行うことにより、電話連絡等の時間を削減でき、教員が子どもたちと関わる時間の確保につながっています。今後も、検証を重ね、よりよい方法を模索していきます。

3 夏休みの端末持ち帰り状況

持ち帰り実施校 (17校/32校)

《持ち帰りによる活用事例》

夏休みの計画表・振り返りの作成、自由研究、各教科の調べ学習、
eライブラリの自主学習 など